



防災週間に住まいのリスク見直しを

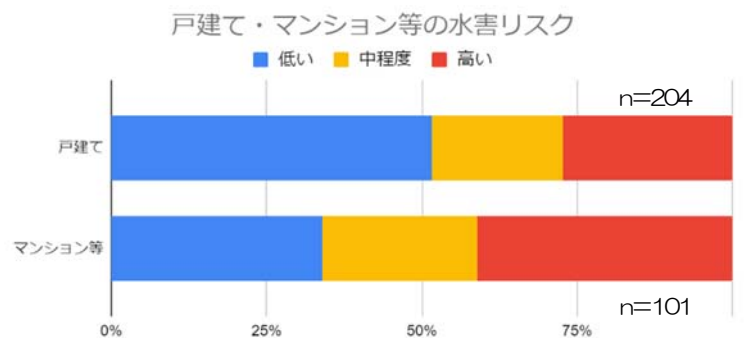
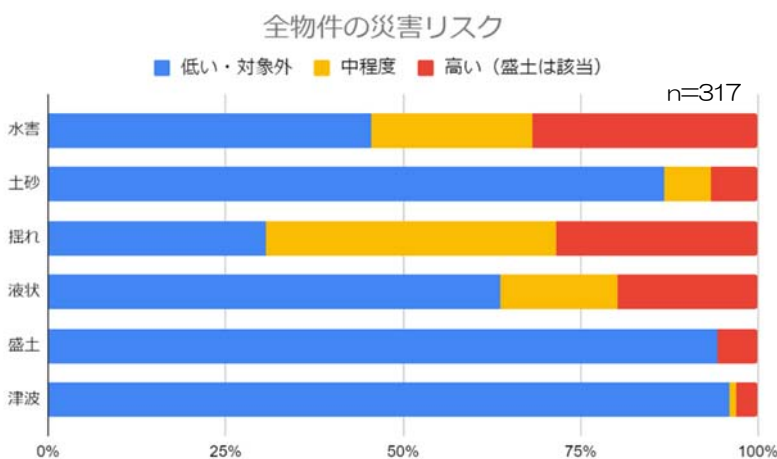
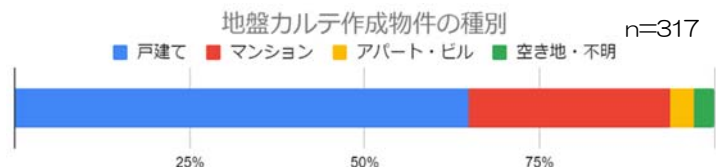
カルテ依頼 300 件の約 55% がリスクある立地に 災害リスクカルテからみた戸建て・マンション災害リスク傾向

業界初の個人向け不動産コンサルティング・ホームインスペクション（住宅診断）、マンション管理組合向けコンサルティングを行う「不動産の達人」株式会社さくら事務所（東京都渋谷区／社長：大西倫加）は、住まいのハザードリスクをピンポイントで診断する、「災害リスクカルテ」発行 300 件発行を記念して、同サービスの受注傾向から、戸建て住宅、マンション・ビルの災害リスクの傾向について防災週間中に大分析を行いました。

1. 作成物件の傾向：災害リスクカルテの依頼があった物件 317 件の種別は、戸建てが 64.4%、マンションが 28.4%、アパート・ビルが 3.5%、その他が 4.1% でした。比較的災害の影響を受けやすい戸建てが 6 割を超えています。マンションでは管理組合様ほか、投資物件をお考えの方からのご依頼もありました。

2. 全物件の傾向：災害リスクカルテでは、5 項目の災害リスクを 3 段階で、また大規模盛土地は該当するかを区分しています。全物件の傾向で、水害リスクは高い（床上浸水以上）が 31.9%、リスク中程度（床下浸水程度）が 22.7% と、55% 近く（54.6%）が水害リスクのある立地でした。土砂災害リスクは土砂災害警戒区域などリスク高い物件が 6.6%、地震の揺れやすさでは 28.4% が揺れやすい地域、液状化リスクでは 19.9% でリスクが高い、大規模盛土地には 5.7% が該当、津波リスクは 3.2% が高い立地にある物件でした。

3. 戸建て・マンション等のリスク：戸建てとマンション等のリスク傾向を見ると、水害リスクが高い＋中程度の物件が戸建てでは 48.5% であったことに対し、マンション等では 65.3% と 2 割近く多い結果でした。地震時の揺れやすさ、液状化リスクもマンション等で多い結果となりました。その一方で、土砂災害リスクが高い場所や大規模盛土地は戸建てに多い傾向がありました。詳細は下記コラムにて紹介しております。



コラム:災害リスクカルテ大分析

<https://www.sakurajimusyo.com/guide/33475/>

災害リスクカルテ

<https://www.sakurajimusyo.com/expert/tochi-jiban-report.php>

■不動産の達人 株式会社さくら事務所■（東京都渋谷区／代表取締役社長：大西倫加） <https://www.sakurajimusyo.com/>

株式会社さくら事務所は「人と不動産のより幸せな関係を追求し、豊かで美しい社会を次世代に手渡すこと」を理念として活動する、業界初の個人向け総合不動産コンサルティング企業です。1999年、不動産コンサルタント長嶋修が設立。第三者性を堅持した立場から、利害にとらわれない住宅診断（ホームインスペクション）やマンション管理組合向けコンサルティング、不動産購入に関する様々なアドバイスを行う「不動産の達人サービス」を提供、58,000組を超える実績を持っています。

本件に関するお問い合わせは、お気軽に下記までご連絡ください。

株式会社さくら事務所

東京都渋谷区桜丘町 29-24 桜丘リージェンシー101

<https://www.sakurajimusyo.com/>

TEL 03-6455-0726

FAX 03-6455-0022

広報室：石原・堤 press@sakurajimusyo.com